

(別紙4) 令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100098	
法人名	社会福祉法人 芳寿会	
事業所名	グループホーム 真心の里	
所在地	山梨県都留市中央1-1-16	
自己評価作成日	令和元年10月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年11月19日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都留市の中央に位置している谷村市域のグループホームです。近くには昔にある商店街、歴史のある小学校、町の中心である市役所などがあります。小学校の運動会、町で開催しているお祭り、自治会の開催するイベントなどに参加させてもらい地域との交流をしています。地域ボランティアなどが月に2、3度来訪してもらい、和太鼓や日本舞踊などをしてもらっています。利用者が自分で出来ることは積極的に行ってもらい家事などをしてもらい、自立支援に繋がっています。併設している特別養護老人ホームの看護師、同法人内の施設往診医、及び地域の医療機関と連携し、医療サポートをしています。グループホームでの看取りについても受け入れを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、裁判所、検察庁、警察署等の公共機関が集まる場所にあり、市街地の中心に位置している。昔はお城があり城下町として栄えた面影が商店街から伝わり、地域資源が数多く残っている。鉄筋3階建ての1階がグループホームで、2階、3階は小規模特別養護老人ホームが併設している。合同の避難訓練を実施したり、施設の医師、看護師との医療連携もあり安心して生活を送ることが出来ている。時間に縛られることがないよう、利用者に合わせて生活してもらえよう支援に努めている。ボランティアの訪問やレクリエーションの楽しみもあり利用者の笑顔が見られている。家族アンケートからの評価もよく管理者と職員の日頃からの対応が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己		項目	事業所名: グループホーム 真心の里		
外部	自己評価(実践状況)		外部評価	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関、事務所などに見やすい場所に掲示し誰でも見えるようにしています。 職員同士のミーティングの際に基本理念に基づくサービスの提供について話し合っています。	法人の基本理念を事業所の玄関と事務所に掲示してある。基本理念を基に事業所では「利用者本位のサービス、地域にサービスを提供する、職員の自己研鑽」を職員間で共有し、日頃から話し合いの場を持ち、利用者一人ひとりに合わせた支援や認知症カフェの取り組み等理念に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・地域のイベント(お八朔祭り、ジョイふる祭り)等に参加しています。自治会から回覧板にて連絡をもらって地域のイベントなどにも参加しています。 ・地域ボランティアにも月2回程度きてもらい地域交流をしています。	自治会に加入して地域の清掃には職員が参加したり回覧板で情報を得ている。お祭りや隣接している小学校でのイベントを見に行き知り合いの人から声を掛けられている。事業所で行う餅つき大会には、地域の人も参加している。踊り、和太鼓のボランティアや大学生の軽音楽サークルの来所がある。事業所のミニ菜園に地域の人が野菜を植えに来てくれるなど地域との繋がりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会を中心に認知症についての理解の支援を行っています。 ・回覧板などを利用し、地域の皆様の認知症についての相談などを受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、現在のGHの運営状況、活動内容などを報告し、委員の意見や要望などを聞きながらサービス向上にいかしています。 ・施設の行事、地域の行事なども情報共有し、地域との連携が図れるようにしています。	2か月に1回、曜日と時間を決めて開催している。事業所からの報告とともに参加者から意見、要望を受けている。インフルエンザの情報や同居高齢者の情報が民生委員からあり事業所としての対応をしている。前自治会長も会議に参加していて、お祭り巡行の際、事業所を休憩場所とするよう働きかけてくれ地域へのサービスを提供する場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えるながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当とは常に情報交換を密にとり、報告や指導、助言を受けています。 ・都留市開催の研修なども参加し、市の担当者とも顔の見えの連携をとっています。	市担当者が地域包括職員でもあり、運営推進会議終了後に話し合いの場を持ち情報交換している。また、認知症サポーター養成講座の実施に向けて相談している。市主催で行われる認知症に関する研修や看取り研修等への参加もしている。認定調査の会議に管理者も参加し担当者との関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を立ち上げて拘束委員会会議などを開催し、活動しています。指針に基づいての活動、職員に研修などをおこなっています。 ・日々のケアでも職員同士が身体拘束につながらないように意見交換しています。	同法人の事業所と合同で身体拘束委員会を作り、3か月に1回開催している。研修会の資料は、法人特養の指針を基に事業所に適した指針として職員と共有している。法人全体でも年1回研修会があり、全職員に資料を渡し実践しているケアを振り返り、質問用紙に記入して提出している。利用者の行動を制限するような言葉の使い方についても、その都度職員同士で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については管理者、職員同士が話し合いなどを通じ、虐待に関する知識、認識を深め虐待防止に取り組んでいます。 ・虐待について気づいたこと話し合い、意見交換をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については、職員が県、市町村の研修に参加したり、市町村の担当者と必要時に報告、連絡、相談をし情報共有をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、自宅訪問または直接施設に来てもらい、契約の締結、解約の説明、需要事項の説明をし、同意を得ています。 ・本人、家族に不安、疑問がある場合には納得に行くまで話し合いをし、理解を得ています。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来所時にサービスの内容、日ごろの様子などを話をしています。その際には、家族、本人の意見やご指摘を組み上げるようにしています。 ・利用者、家族の意見、不満を聞けるように入口に意見箱を設置しています。	利用料金が現金払いにしてあり、毎月1度は家族が来る機会を作っている。その都度、利用者の日頃の様子を話したり、家族等から意見、要望を聞くよう心がけている。外泊する際、家の階段の上り下りが困難になったとの相談もあり、福祉用具取り付けの提案をし業者の情報提供をした。家族からは外出の機会を作ってほしいとの意見があり反映させていく。意見箱も設置して、意見、要望を表せる場を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回全スタッフに対してアンケートを実施し、管理者と面談を行っています。管理者との面談は個々に必要に応じて行っています。 ・毎月法人全体で代表者会議を開催し、職員の意見を反映できるようにしています。	職員に処遇と自己評価のアンケートを年2回実施し、施設長はアンケートを基に個人面談をして勤務体制や異動の希望等聞いている。管理者は常日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、提案や備品購入等の要求を聞き、働きやすい環境を整えている。法人の介護関係者代表会議も毎月開催し支援に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回施設長の面接に実施で、努力目標や実績評価、業務の要望などを聞き取り等を行っています。 ・法人全体で勉強会などを開催し、向上心を失わないように親子楽しく働けるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部の研修の参加および内部の研修(認知症研修、感染研修などに)参加しています。 ・資格試験には資格取得のための研修費を負担しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修時には他施設職員、ケアマネージャと積極的に交流し、意見交換をしています。 ・他施設の訪問を受けたり、意見交換をしたりしています。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・管理者が自宅、他施設に訪問し、現在本人が困っている事、不安に思っている事を伺っています。入居前には直接施設に来てもらい、いろいろな相談を受けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に管理者が家族が困っている事、不安に思うことなどを、施設に来てもらい、直接伺っています。 ・家族との連絡を密にし、家族に不安、要望などを傾聴し理解しながら安心して頂けるように配慮しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学、相談際には介護サービス利用に向けて不安や相談を受けています。 本人家族に寄り添った介護サービスの提案をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者、職員が「ともに生活する」という考え方で、介護するのではなくできないと怒りだけ手伝いをするケアをさせてもらっています。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名: グループホーム 真心の里	〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕			
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者を中心に家族、職員が密に連携をとりお互いの思いを共有しながら支援しています。 ・家族とに絆が深まるよう積極的に外出、外泊を支援しています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所になじみの商店街に出かけたり、馴染みの理容店、八百屋を利用しています。 ・馴染みの人との面会を積極的に支援しています。	事業所周辺に利用者の馴染みの店がある。食材は、主に配達されるが、散歩しながら行きつけの八百屋やコンビニで購入することもある。昔から利用していた美容院に家族と一緒に行く人や訪問の美容師と馴染みだったり継続的な関係が続いている。昔の女学校跡が市役所になり、懐かしいと出向く利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の尊厳、生活歴、個々の生活などを考慮しながら利用者同士が良好な関係が作れるように支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された利用者は、同法人内の特養入所が多いので情報共有、連絡、相談を行っています。 ・退所後のご家族の相談も行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや生活歴把握しながら職員同士話し合いを持ちながら支援しています。把握が困難な場合には管理者、職員が話し合い本人に合ったケアを検討しています。	入居時のアセスメントで生活歴等把握して支援に繋げている。また、日々のかかわりの中で、何げなく発した言葉はケア記録に記入している。午前中は利用者やゆったり話をする時間があり何をしたいか、誰に会いたい等聞くことができる。コミュニケーションが困難な利用者は、表情や行動の前後の状況から把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族に情報、本人の何気ない会話からその人のどのように生活していたかを把握しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の日々の過ごし方、心身の状態等を観察し、その都度記録しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の職員同士のミーティング、担当者会議等で意見、アイデアを出してもらい介護計画に反映しています。	入居前に関わりのあった関係者から聞き取りをしたアセスメントを基に、利用者、家族の生活に対する要望を反映した介護計画を作成している。入居後、ケア記録を基に1か月で見直ししている。見直しはモニタリングを基に6か月とし、家族の要望や変化が生じた場合には現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の様子や特記事項などは介護記録に記入し、その情報を基に職員同士が情報共有、意見交換し介護計画を見直ししています			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、ご家族の希望を取り入れ、その状態に応じたサービスの提案をしています。 ・本人、家族のニーズに対応できるようにしています。特に医療連携などは積極的に行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くの馴染のある商店街に出かけたり、レストランなどに食事に出かけています。 ・月に2,3度に地域のボランティアにきてもらっています。(和太鼓、日本舞踊など)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の意向が添うように、往診医、専門医と連携を取りながら支援しています。 ・家族、本人の意向により現状は施設の往診医(内科)が主治医となり支援しています。	系列病院の訪問診療を利用者、家族が希望するかかりつけ医として定期受診している。週1回医師の訪問があり、必要時には受診している。薬の変更や専門的検査を要する場合には、家族等に連絡している。専門医の受信は基本的には、家族同行となっている。義歯の調整等必要時に歯科の訪問診療も受け入れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、併設の特養看護師と連携を取りながら適切な看護、医療が受けられるように支援しています。 ・往診医と連携をとりながら医療的な支援をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時は各医療機関のSWや看護師と情報共有し、連携しています。入院時もケアマネが病院を訪問し、本人、家族の要望、相談に乗っています。 ・近隣の各医療機関のSWとの関係作りを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、終末期のありかたについて入所時に事業所としての方針を説明しています。また、家族の考え方についてもその都度確認しています。 早い段階から終末期の方針を情報共有し病院移転や特養の転居などを提案し、支援しています。	入居時に重度化や終末期に関する事業所の方針を説明している。退院後の対応について事業所が対応できるケアについて説明を行い、本人や家族の意向を踏まえ確認を取りながら取り組んでいる。事業所での終末期を希望した場合は、医師、看護師、職員が連携を取り、安心して終末期を迎えられるよう体制を整えて支援している。カンファレンスで職員の看取り研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生に備えて、適切な応急処置や救急対応ができるように話し合い対応しています。 ・緊急時には同施設内の職員にも応援してもらうように体制を整えています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災を想定した訓練を併設の特養と年2回避難訓練を行っています。夜間を想定した「避難訓練もGH職員で実施しています。	火災を想定した避難訓練を併設の特養と合同で年2回実施している。防災管理業者が立ち合い、消火器、ホースの使用方法を学んでいる。スロープ、エレベーターが使えない状況を想定して、利用者の状態を踏まえて避難誘導している。事業所独自で夜間を想定した訓練を半年に1回実施し、その場で振り返りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応している	・利用者ひとり一人の人格を尊重して利用者のプライドやプライバシーを損ねないような言葉使いをしています。 ・ケアファイルは外部の人の目が見えないようにしています。	利用者の呼称は苗字だが、名前のほうが良いと思われる場合は家族に了解を得ている。利用者が不快にならないように配慮し、丁寧な言葉づかいで接している。トイレ誘導にも気を付けてさりげない言葉かけを心がけている。お便りの写真は個人情報保護のため外部に出さない。また、個人ファイル等は管理を徹底している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・様々な場面で、本人の意思決定が出来るような声掛けおこなっています。本人の意思を尊重してケアを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位の日々の暮らしができるようにケアしています。利用者がやりたいこと、出来ることを職員同士が意見交換しながら日々の暮らしを送っています。			
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は家族に協力してもらい馴染の衣服、おしゃれな衣服を用意してもらっています。 ・出張販売などを利用してもらっています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ミニ菜園で収穫した野菜、家族、職員が持ってきてくれる野菜等季節に応じた旬の食材を提供しています。 ・食事のかた付けなどは、利用者が率先して手伝ってくれます。 ・献立はその日に利用者が食べたいものを作るようにしています。	その日のメニューは利用者に相談しながら決めるようにしている。食材や気温によって温かいものにしたりと職員が調理している。食材は週1回注文して配達してもらい、足りないときは買い物に行っている。利用者の誕生会には、食べたいものを聞いて用意し、楽しみとなっている。利用者も出来ることは手伝っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者ひとり一人に応じた食事を提供しています。利用者の体調に応じたキザミ食、お粥など提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後の口腔ケアの口腔ケアの声掛けを行っています。歯磨き後には職員が歯磨きチェックをしています。 ・必要に応じて協力歯科医の往診を行っています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗が無い様に一人一人に合わせた排泄パターンを把握して誘導を行っています。	ケア記録に記入して利用者毎にパターンに応じた排泄支援を行っている。居室にトイレが備えてあり使い慣れたトイレで周囲に気遣うことなく車椅子の利用者も自立してトイレで排泄している。退院した翌日にオムツからリハビリパンツに替え、トイレでの排泄を本人が希望してリハビリに通い自立に繋げることができた。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定期的に自然排便が出来るような適度な運動、食事、水分摂取を行っています。 ・便秘がひどい場合には、看護師、主治医と相談しながら対応しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	・週2回と決めているが、本人の希望があれば入浴したいときに入浴してもらっています。	基本的には一人の利用者が週2回の予定で入浴している。午後から入浴準備して支援し、入浴日でなくても希望がある場合は対応している。お風呂に入るのが面倒くさい、疲れた等で拒む場合は、声掛けの工夫や職員を替えたり、同性介助での対応を試みて入浴を促している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人一人の生活習慣に合わせて、本人のリズムに合わせて静養してもらっています。特に消灯時間は決めておらず本人のペースに合わせています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に内服できるように職員全体が薬の目的などを理解して介助しています。 ・体調の変化が見られた場合には、主治医に連絡し、指示を受けています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節の行事やボランティアなどを活用して楽しみ事を支援しています。 ・日々の仕事に張り合いがあるように出来ることを探して、家事手伝い、ウエス作りなどを行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	・場所柄になげなく外に散歩できる環境なので、希望により近くの小学校、商店街等に行き地域の皆さんとあいさつしたり、会話をしています。	日常的には町内を散歩したり、近くのコンビニに行っている。事業所周辺で桜のお花見ができ、隣接している小学校に行き子供達と会話したり、行きつけの文房具屋さんで買い物をするなど戸外に出掛ける機会はある。利用者も遠くに行かなくても事業所を一步出ること四季折々が感じられ満足している。家族と一緒に出掛けている利用者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭は基本的に管理者が行っているが、本人希望家族の了承によりお金を所持している利用者もいる。 ・近所の商店街では職員と一緒にいき、個人で支払いすることもある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙や電話は自由にできるよう支援しています。 ・事務所の電話度などを利用し、本人の希望があれば自由に連絡が取れるように支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じられるような作品を利用者と一緒に作成しています。利用者が快適と感じられるように音、温度明るさに配慮しています。	事業所は鉄筋コンクリート3階建ての1階で玄関を入り広い廊下を挟んで居室がある。キッチンと生活協同室にテーブルと椅子が置かれワンフロアで利用者が多くの時間を過ごす場所になっている。廊下に掲示物は飾らず、フロアに利用者の書いた習字や貼り絵、行事の写真、季節感があるものを飾っている。共用空間は温度、湿度の管理をして居心地よく過ごせる場になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースでは気の合った利用者同士でゆっくり過ごせるように支援しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で生活しているように、本人自宅にあった家具、馴染みの物を持ってきてもらい自分らしい居室にしてもらっています。	居室にはトイレ、洗面台、ベッド、寝具が備え付けてある。また、カーテンは防火の物を各自で取り付けしている。トイレ、洗面台の場所が広く、居室全体がフローリングで広々と感じる。タンス、椅子、写真、電子オルガン等馴染みの物を持ち込んで配置し、それぞれの居室がその人らしく居心地よく過ごせるようになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は全面バリアフリーになっています。トイレ、廊下、浴室には手すりがついています。			